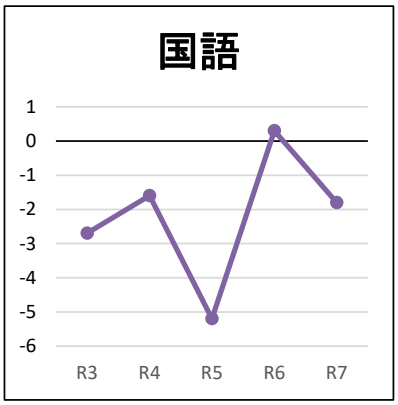
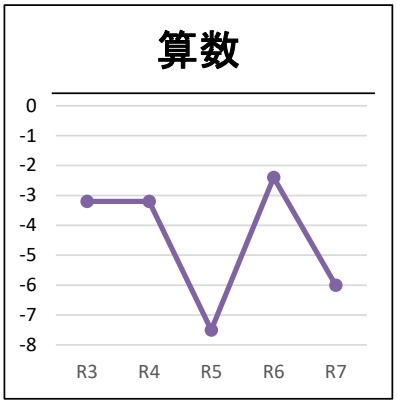
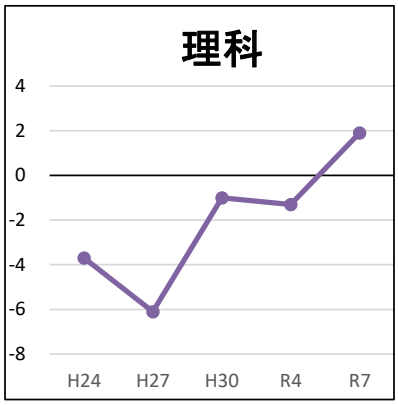
小学校　５校（国語・算数・理科：77名）

１　平均正答率（全体）の経年推移

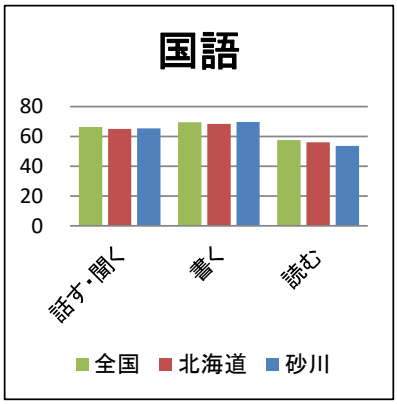
※全国の平均正答率との差

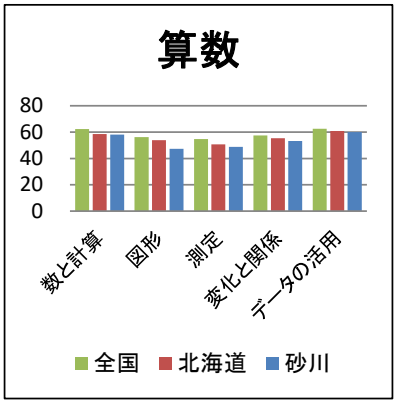


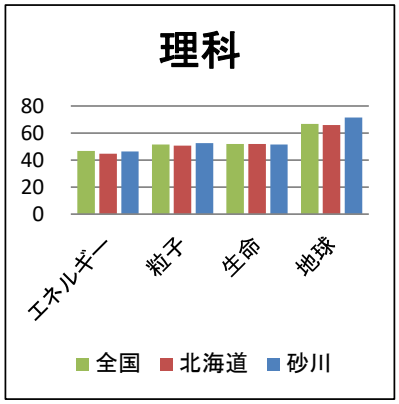




２　領域別平均正答率の状況

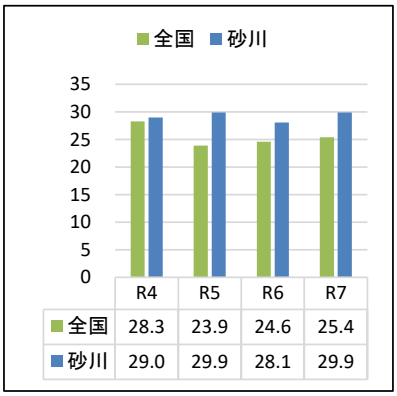






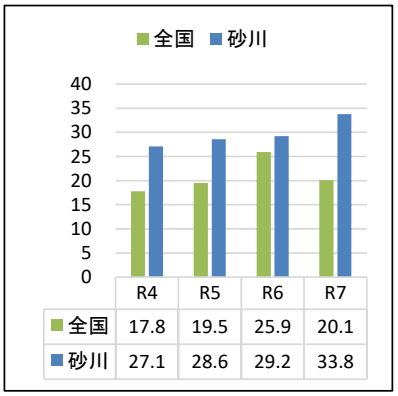
３　全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合（努力を要する児童の割合）

国語



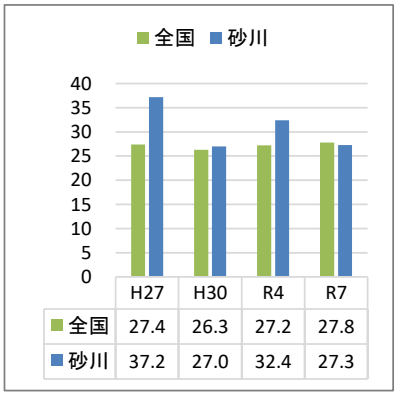
	R4	R5	R6	R7
全国	28.3	23.9	24.6	25.4
砂川	29.0	29.9	28.1	29.9

算数



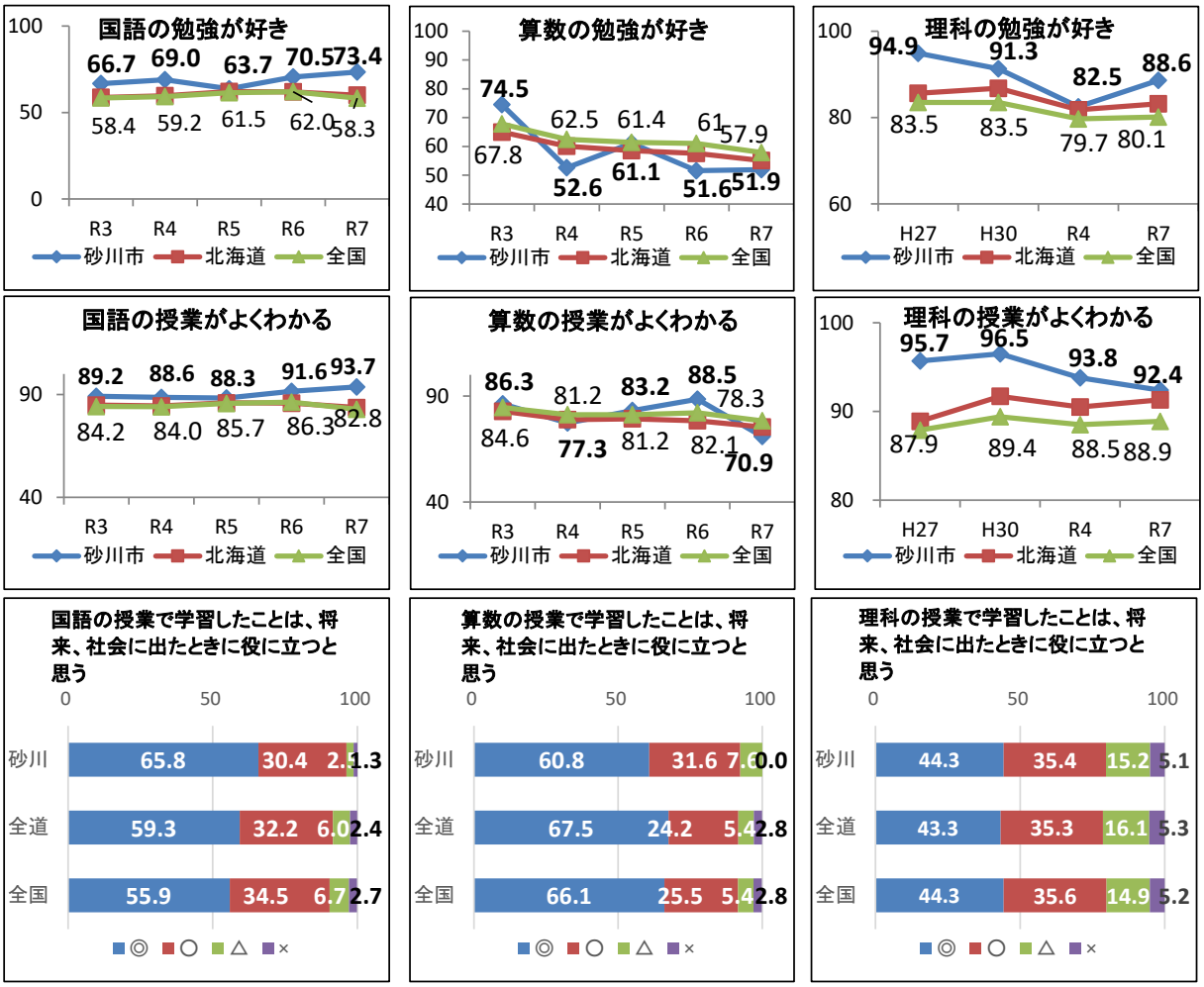
	R4	R5	R6	R7
全国	17.8	19.5	25.9	20.1
砂川	27.1	28.6	29.2	33.8

理科



	H27	H30	R4	R7
全国	27.4	26.3	27.2	27.8
砂川	37.2	27.0	32.4	27.3

4　授業に関する意識（質問紙調査より）　※北海道の結果については、折れ線グラフ表示のみとし、数値による表記を省略



5　分析

○　平均正答率の全国平均との比較では、国語についてはやや下回り、算数については下回り、理科についてはやや上回った。

○　領域別の全国平均との比較では、国語については、「話すこと・聞くこと」は同程度【下】、「書くこと」は同程度【上】、「読む」はやや下回っている。算数については、「数と計算」「変化と関係」「データの活用」はやや下回り、「図形」「測定」は下回っている。理科については、「エネルギー」「生命」は同程度【下】、「粒子」「地球」はやや上回っている。

○　全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童（努力を要する児童）の割合は、国語、算数で 全国平均を上回り、理科は下回っている。

○　国語の勉強が「好き」、という割合は全国平均を大きく上回ったものの、算数については全国平均を下回った。算数の授業においては、児童に達成感や成就感、新たな興味を抱かせるための指導上の工夫が求められる。

○　国語の勉強が「よくわかる」という割合は全国平均を大きく上回ったものの、算数の勉強が「よくわかる」という割合は全国平均を下回った。各学校において、「砂川市学習スタンダード」を踏まえた指導や、タブレット端末の効果的活用といった授業改善の取組をより一層強化する必要がある。

○　「学習したことは、社会に出た時に役立つ」と思っている割合は、国語は全国平均を上回り、算数は全国平均と同程度【上】、理科は全国平均と同程度【下】であった。

6　授業改善の視点

○　砂川市学習スタンダードを踏まえた指導過程による授業改善の推進（課題把握、見通し、自力解決、交流、まとめ、ふり返り）

○　児童が思考したり、話し合ったり、交流したりする場面を意図的・計画的に取り入れ、学習のふり返りをする時間の十分な確保（教師の端的な説明・指示、子どもの思考を深める発問の工夫、「協働的な学び」の充実）

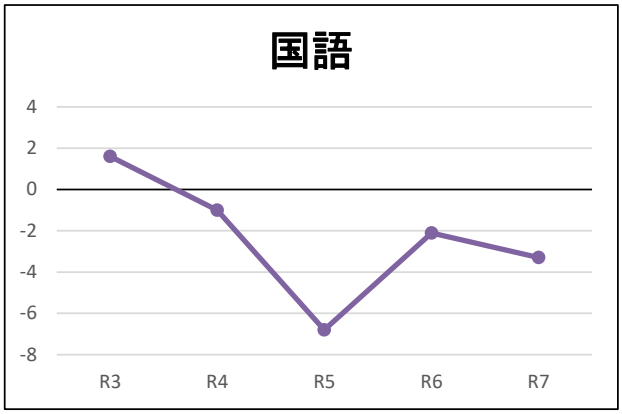
○　複数の資料から必要な情報を読み取り、わかったことを言葉や文で表現する力の育成

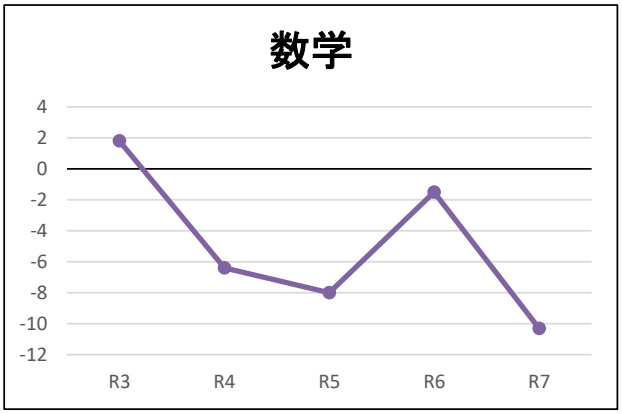
中学校　１校（国語・数学：93名　理科：96名）

※全国の平均正答率との差

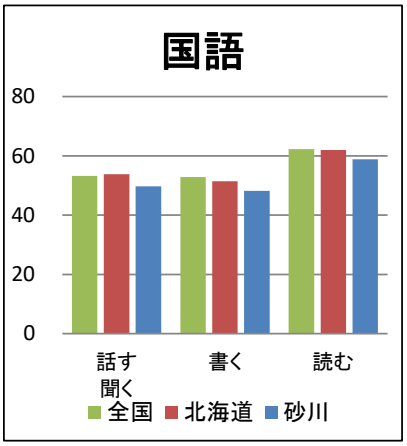
※理科はIRTｽｺｱ方式となったため経年比較は不可

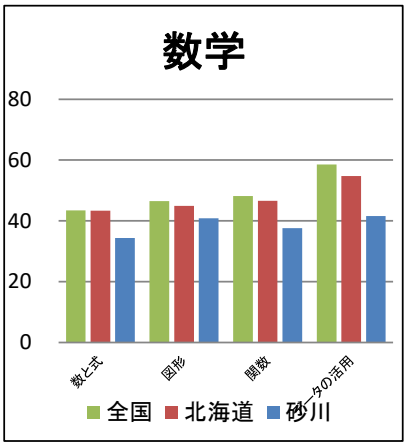
１　平均正答率（全体）の経年推移

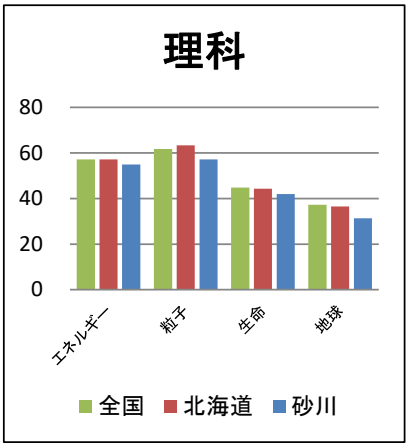




２　領域別平均正答率の状況



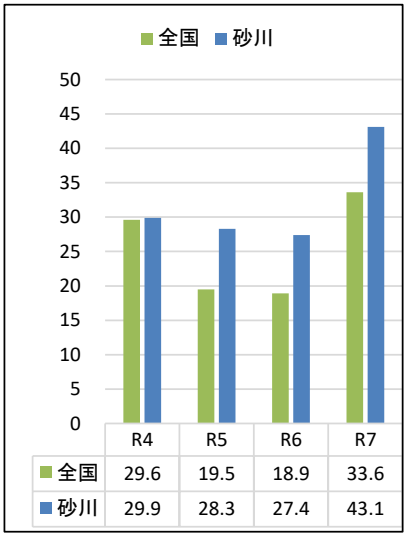




３　全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合（努力を要する生徒の割合）

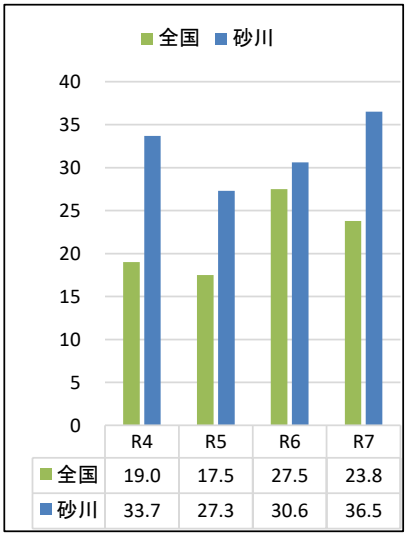
※R7はIRTバンド3未満の生徒の割合

国語



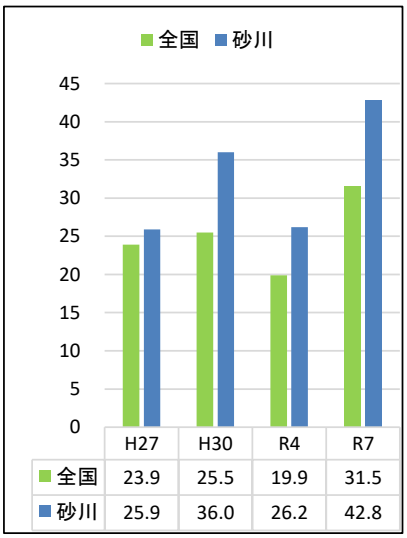
	R4	R5	R6	R7
全国	29.6	19.5	18.9	33.6
砂川	29.9	28.3	27.4	43.1

数学



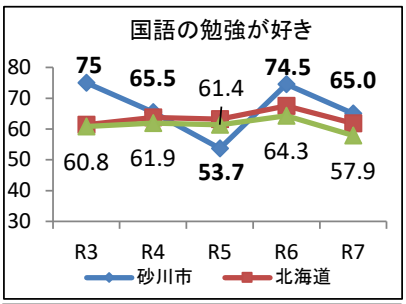
	R4	R5	R6	R7
全国	19.0	17.5	27.5	23.8
砂川	33.7	27.3	30.6	36.5

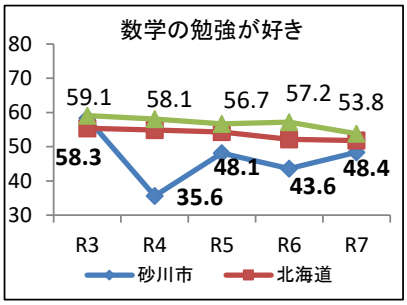
理科

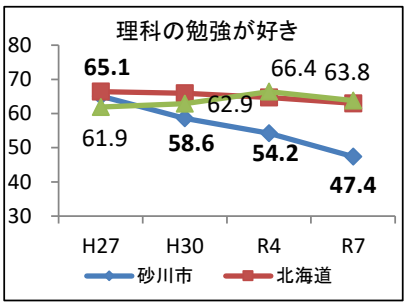


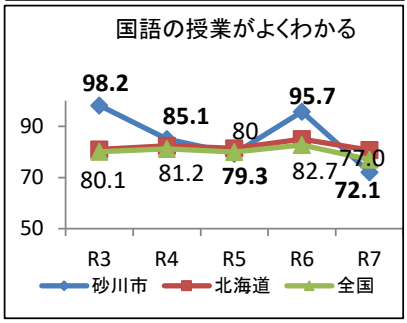
	H27	H30	R4	R7
全国	23.9	25.5	19.9	31.5
砂川	25.9	36.0	26.2	42.8

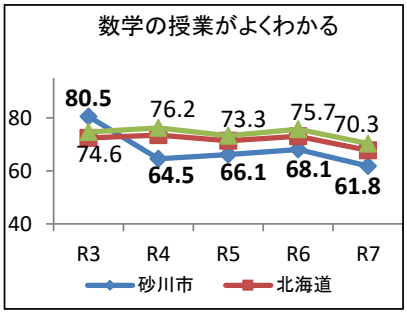
4　授業に関する意識（質問紙調査より）　※北海道の結果については、折れ線グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

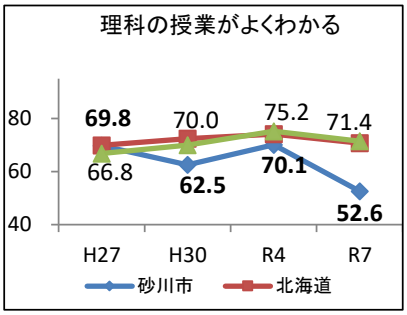


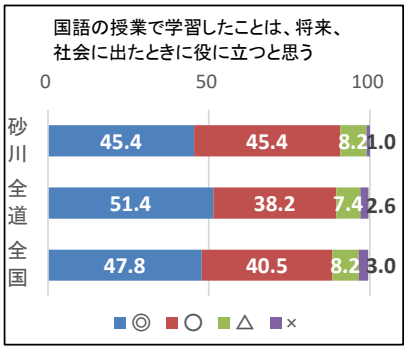


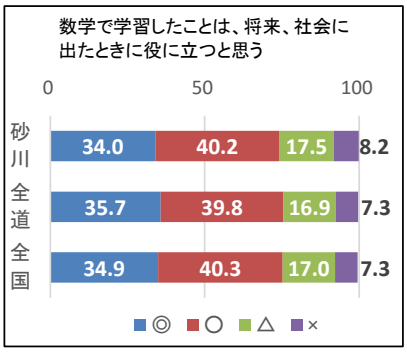


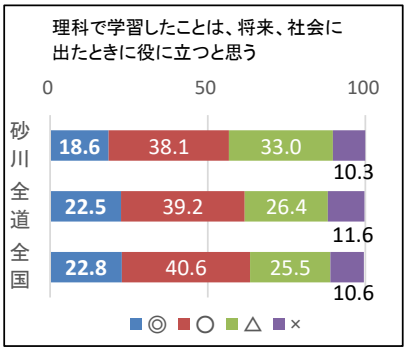












5　分析

○　平均正答率の比較では、国語については全国平均をやや下回り、数学については全国平均を下回った。

○　領域別の全国平均との比較では、国語はすべての領域でやや下回り、数学はすべての領域で下回った。理科は「エネルギー」「粒子」「生命」の領域で全国平均をやや下回り、「地球」の領域で全国平均を下回った。

○　全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒（努力を要する生徒）の割合は、いずれの教科も全国平均を上回った（理科はIRTバンド3未満の割合）。

○　国語の勉強が「好き」という割合は、全国平均を上回ったが、数学と理科については全国平均を下回った。数学、理科の授業においては、児童に達成感や成就感、新たな興味を抱かせるための指導上の工夫が求められる。

○　「授業がよくわかる」という思っている割合は、すべての教科において全国平均を下回った。

○　「学習したことは、社会に出た時に役立つ」と思っている割合は、国語は全国平均をやや上回り、数学は全国平均をやや下回り、理科は全国平均を下回った。

6　授業改善の視点

○　砂川市学習スタンダードを踏まえた指導過程による授業改善の推進（課題把握、見通し、自力解決、交流、まとめ、ふり返り）

○　生徒が思考したり、話し合ったり、交流したりする場面を意図的・計画的に取り入れ、学習のふり返りをする時間の十分な確保（教師の端的な説明・指示、子どもの思考を深める発問の工夫、「協働的な学び」の充実）

○　課題解決への見通しをもたせ、授業の終末で課題を解決できたという実感を得られる授業づくりの推進（「わかる・できる授業」の構築）

○　「表現する」（書く、説明する、思考ツールによって表すなど）ことを重視した学習指導の充実

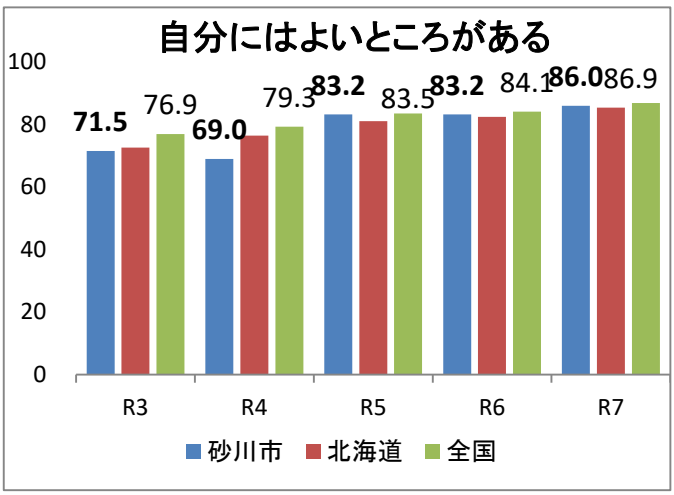
○　学習したことが日常生活や社会の中で活用できることを実感させる授業の実践

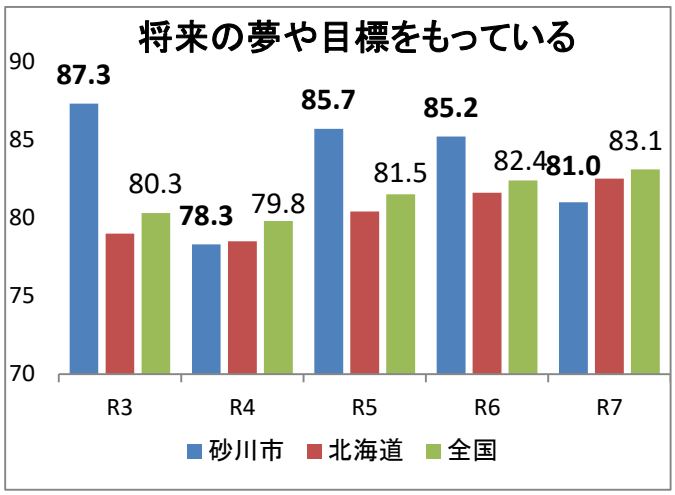
○　ICT機器を活用した、きめ細かな指導体制の整備（「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実）

小学校質問紙調査　５校（79名）

※北海道の結果については、グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

1　自尊感情に関する児童の状況

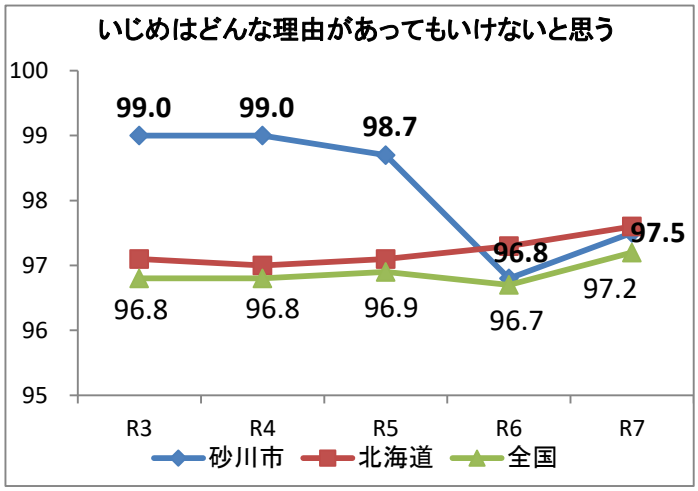


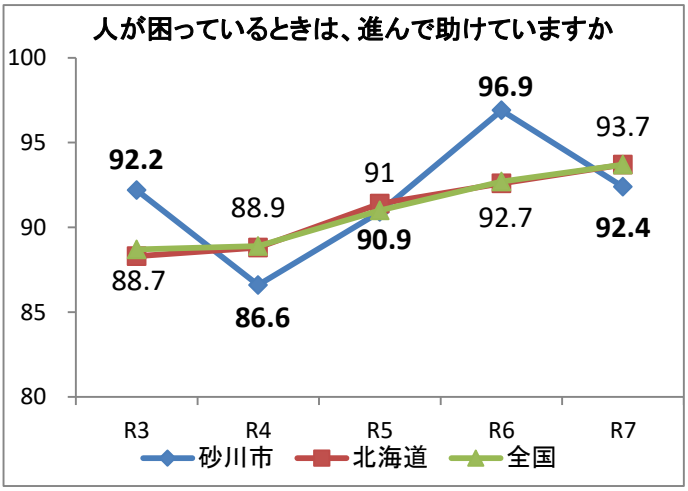


「自分にはよいところがある」と回答している児童の割合は、昨年度をやや上回っており、全国平均と同程度の状況であった。引き続き、異学年を含む多様な他者との関わりや体験的な活動を通して、自分のよさに気づかせ、自信をもたせるような教育活動を充実させていくことが大切であると考える。

「将来の夢や希望をもっている」と回答している児童の割合は、昨年度をやや下回る数値となり、全国平均をやや下回っている。市内共通のキャリアパスポートを効果的に活用することなどを通して、小学校の早い段階からのキャリア教育の一層の充実を図っていく必要がある。

2　規範意識に関する児童の状況



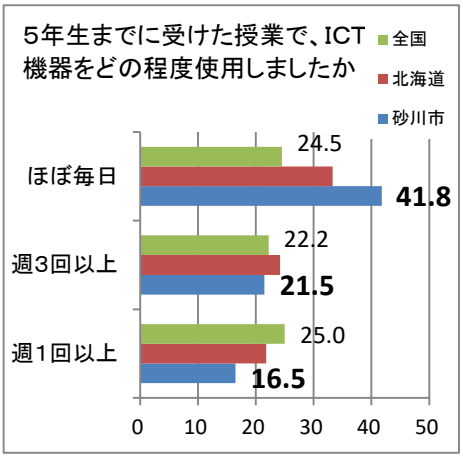


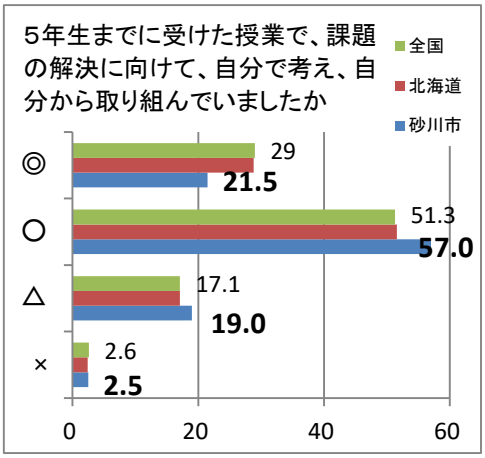
いじめに対する考え方は高い水準で安定しており、相手を傷つけたり、嫌な思いをさせたりしてはいけないということを理解している児童が多いといえる。今後も、全ての児童がいじめはどんな理由があっても許されない行為であり、お互いに嫌な思いをすることなく生活していくことができるよう、様々な場面を通して指導していくことが大切である。

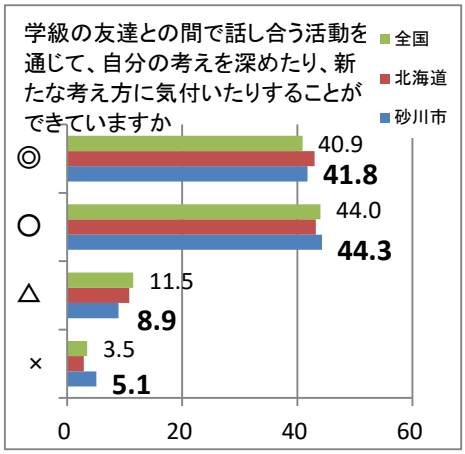
また、困っている人を助けることの大切さを意識している児童の割合は昨年度をやや下回った。他者を思いやる優しい心をもつことができるよう、引き続き、指導・支援を行っていくことが重要と考える。

3　学習に関する児童の状況

（1） ICT機器の活用と主体的、対話的で深い学びの実現

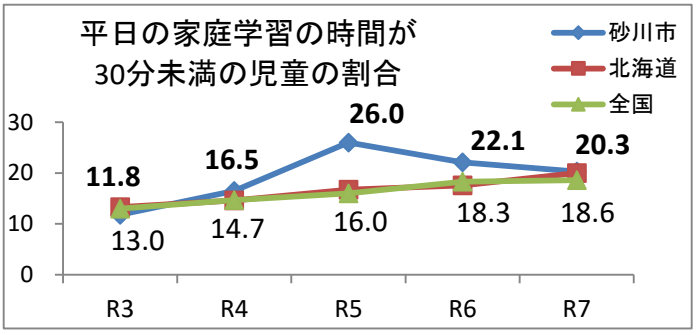


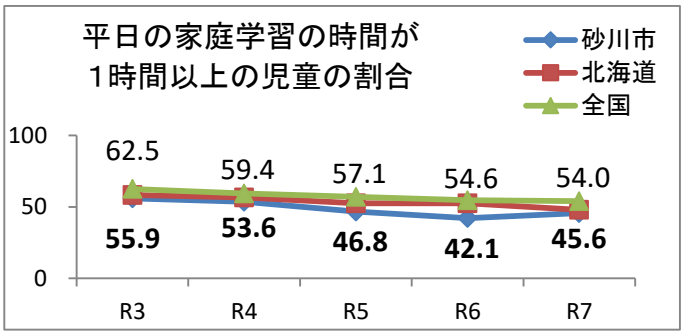


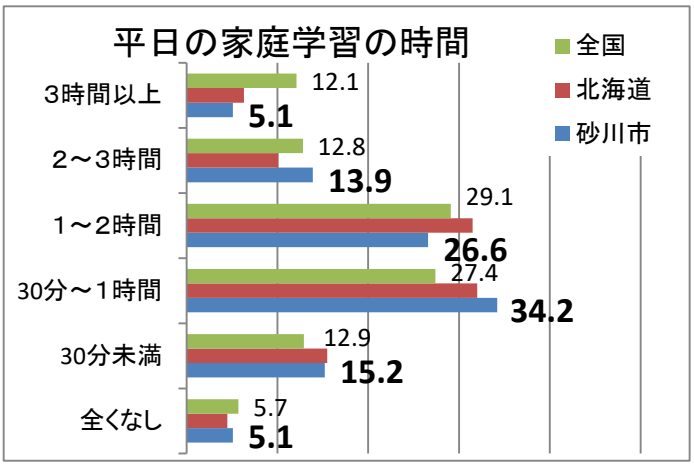


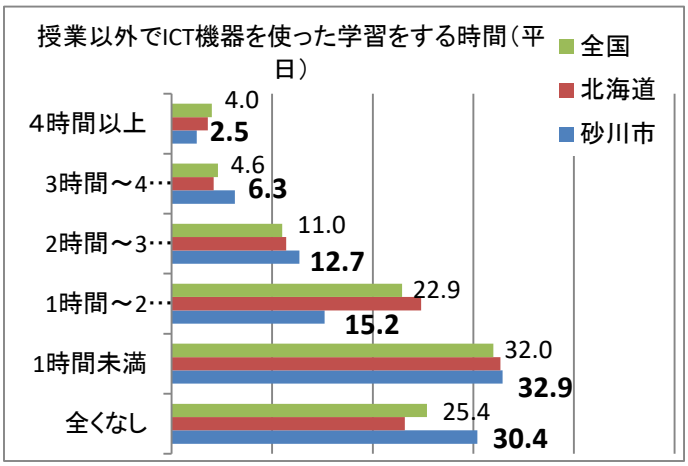
ICT機器を「ほぼ毎日」活用している割合は、全国平均を大きく上回っており、デジタル機器を積極的に学習活動等に取り入れていることがわかる。主体的に課題解決に向かう意識については、全国平均をやや下回っており、課題解決の見通しをもたせる指導や、個人思考を促す場面を設定した学習の充実を図る必要がある。話し合い活動を通して考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童については、全国平均をやや上回っており、協働的に学び合う場面を意図的に設定した授業が展開されていることによるものと考えられる。

（2） 家庭での学習状況









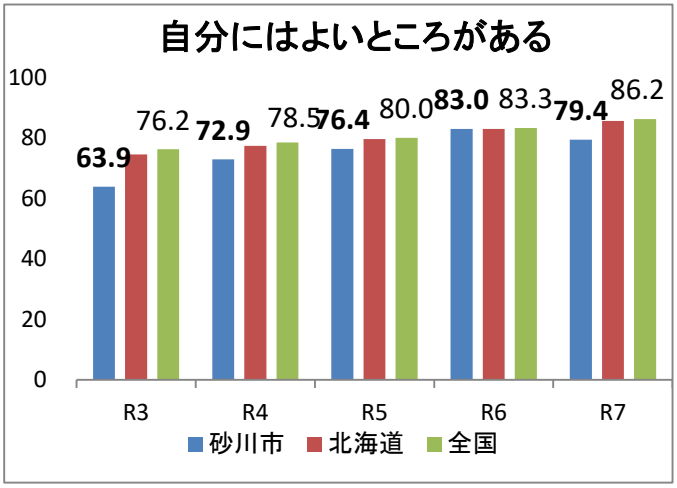
平日30分以下の学習時間の児童の割合が減少し、平日１時間以上学習している児童の割合が増加した。全市統一の家庭学習チャレンジ週間の取組による成果が表れているものと考える。平日の家庭学習の時間別の数値では、30分～１時間未満の割合が最も多い。

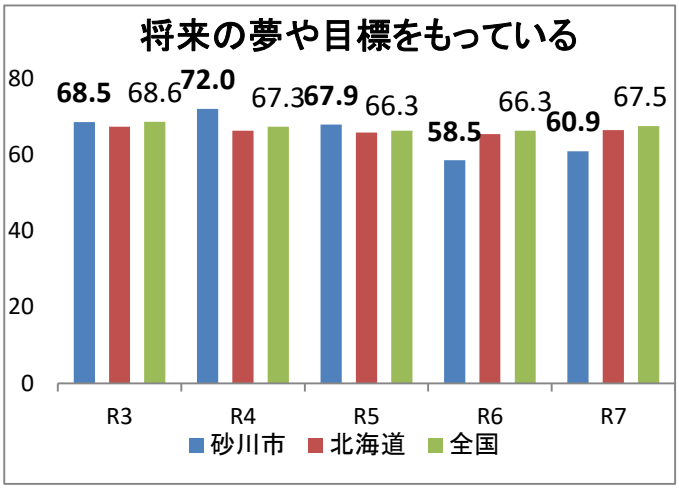
授業以外でＩＣＴ機器を使った学習をする時間については、「全くなし」の割合が全国平均を上回っており、「１時間未満」と回答した児童の割合が最も多い。ＡＩドリル等の学習アプリを導入している学校においては、端末の持ち帰りが進んでおり、家庭でのＩＣＴ機器を活用した学習時間が長くなる傾向が見られる。

中学校質問紙調査　１校（97名）

※北海道の結果については、グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

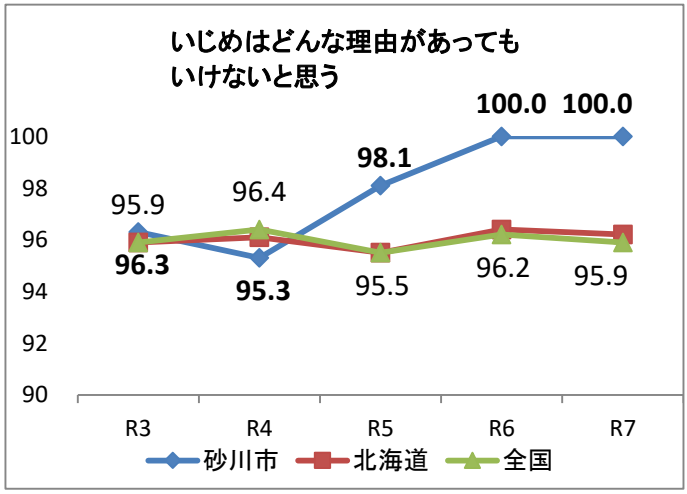
１　自尊感情に関する生徒の状況

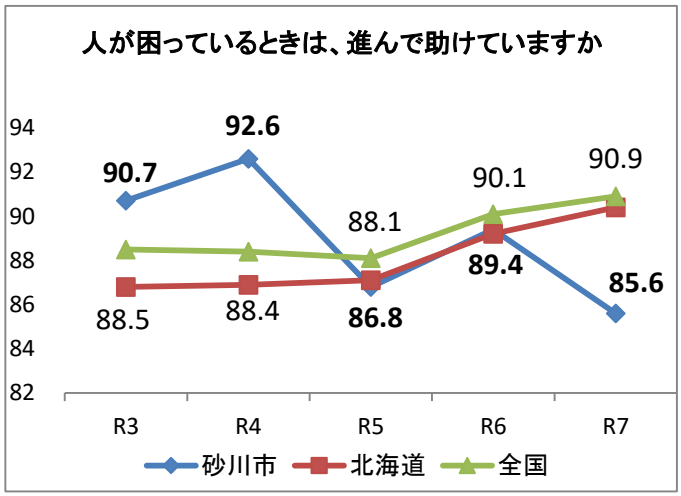




「自分にはよいところがある」と回答している生徒の割合は昨年度をやや下回っており、全国平均を下回った。多様な他者との関わりや体験的な活動を通して、自らのよさを発見し、自信をもたせるような教育活動を充実させていくことが大切であると考える。一方、「将来の夢や希望をもっている」と回答している生徒の割合は、昨年度をやや上回ったものの、全国平均を下回った。職場体験の充実や外部人材を活用した様々な学習活動の推進によって、生徒の職業観を育み、自らの生き方について考えさせるキャリア教育の一層の充実を図っていくことが大切である。

２　規範意識に関する生徒の状況



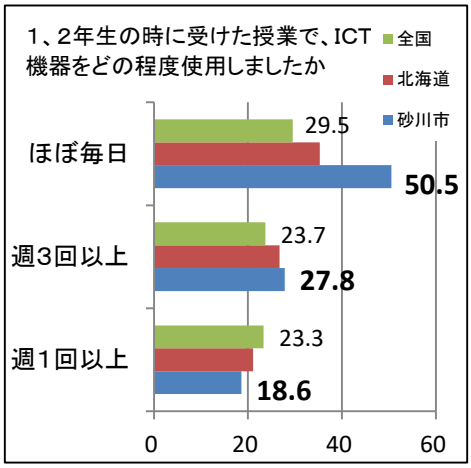


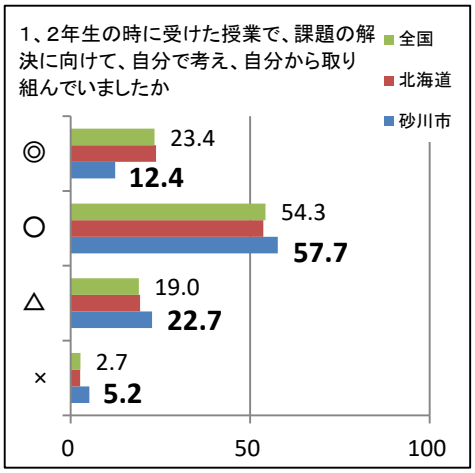
すべての生徒が「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」と回答しており、全国平均を上回った。困っている人を助けることの大切さを意識している生徒の割合は、昨年度をやや下回り、全国平均を下回った。

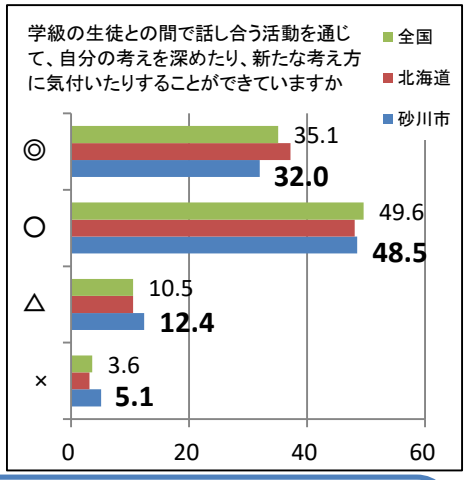
引き続き、いじめはどんな理由があっても許されない行為であることや、多様な他者を理解し合い、助け合い、支え合いながら生活を営むことの大切さに気付かせる指導を、様々な場面を通して積み重ねていくことが重要と考える。

3　学習に関する生徒の状況

（1） ICT機器の活用と主体的、対話的で深い学びの実現

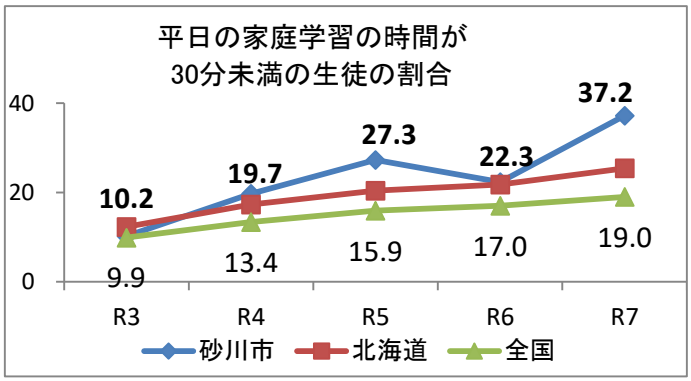


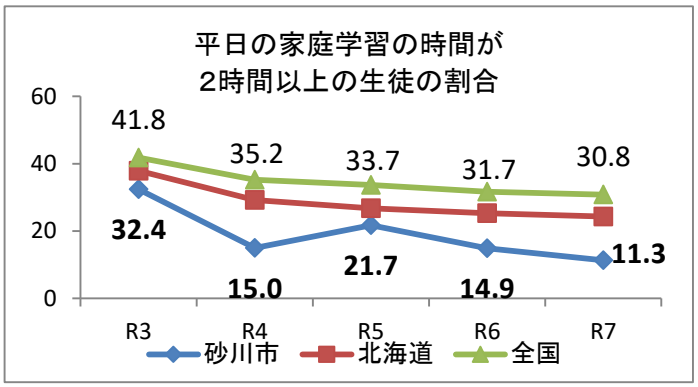


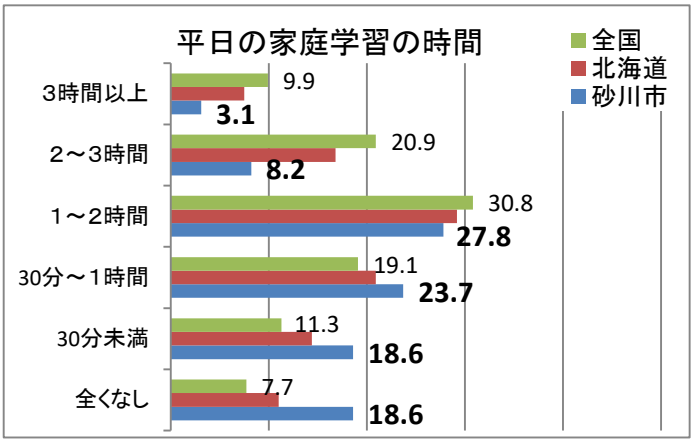


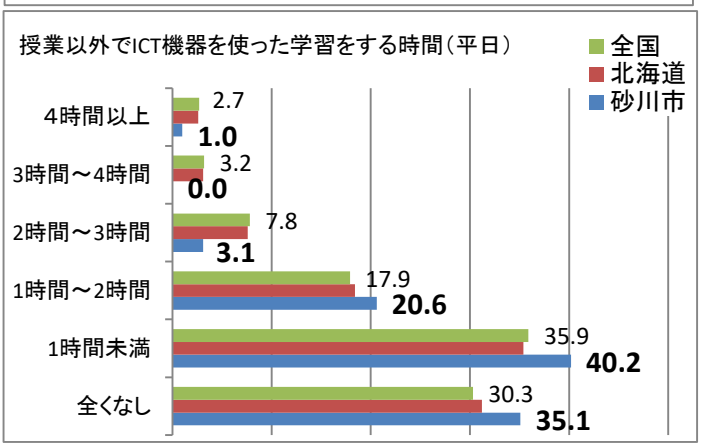
ICT機器を「ほぼ毎日」使用している割合は、全国平均を大きく上回っており、各教科等において日常的な端末活用が進んでいる様子が見られる。また、「主体的な学び」や「対話的な学び」に関わる質問に対する肯定的回答率が高く、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の取組の成果が表れていると考えられる。

（2） 家庭での学習状況









平日30分以下の学習時間の生徒の割合が増加し、平日２時間以上学習している生徒の割合は昨年度よりも減少した。平日の家庭学習の時間別の数値では、１時間～２時間未満の割合が最も多く、２時間以上の生徒の割合は全国平均を大きく下回っている。

授業以外でＩＣＴ機器を使った学習をする時間については、「全くなし」の割合が全国平均をやや上回っており、１時間未満の割合が最も多くなっているが、全体としては全国と同様の傾向である。

家庭で学習に取り組む時間の確保が課題であり、保護者との連携のもと、家庭における生活習慣の見直しを継続的に指導することが大切である。